

# 曇雨天に対する農作物の技術対策

令和3年7月2日  
農業技術課

6月中旬以降、曇雨天の日が多くなっています。7月1日からは、まとまった降雨量になっており、7月2日発表の週間天気予報では、週明け以降も曇雨天が続く見込みです。農作物の管理に十分注意してください。

## 1 週間天気予報

山梨県の天気予報（7日先まで）									
2021年07月02日11時 甲府地方気象台 発表									
日付	今日 02日(金)	明日 03日(土)	明後日 04日(日)	05日(月)	06日(火)	07日(水)	08日(木)	09日(金)	
山梨県	雨 	曇時々雨 	曇時々雨 	曇一時雨 	曇 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇一時雨 	
降水確率(%)	-/80/60	60/50/50/30	70	50	40	50	50	50	
信頼度	-	-	-	C	C	C	C	C	
甲府 気温 (℃)	最高	23	29	26 (24~28)	27 (25~33)	29 (26~34)	27 (26~33)	29 (26~34)	29 (28~35)
	最低	-	22	23 (21~24)	23 (21~24)	22 (21~24)	22 (20~23)	22 (20~23)	22 (20~24)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値									
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温			
甲府				平年並 12 - 39mm		21.4℃		30.3℃	

## 2 農作物の技術対策

### (1) モモ

- ・除袋は、通常より2～3日早めに行う。
- ・枝吊りや支柱の立て直しを行い、樹冠内部や樹冠下に十分日光が当たるようにする。
- ・着色期の品種では、徒長枝の切除や摘心、葉摘みを行う。樹冠下の明るさの目安は木漏れ日が約20%透過する程度とする。
- ・反射マルチは早めに敷き、反射率の高いものを使用する。
- ・熟期になった果実は、熟度を優先して硬度2kgを下回らないうちに収穫する。また、集出荷施設では、前予冷施設や保冷などを活用し、収穫後の熟度の進行を抑える。
- ・果実腐敗病の発生に注意し、薬剤防除を行う。特に、雨が多い場合は、追加防除を行う。発病果は伝染源となるため、見つけ次第土中に埋めるなど適切に処分する。

### (2) スモモ

- ・支柱の立て直し、徒長枝の切除、摘心などの管理により、樹冠内部に十分日光が当たるようにする。特に、結実量の少ない園では、新梢が過繁茂になりやすいので、新梢管理を徹底する。
- ・果実腐敗病の発生に注意し、薬剤防除を行う。特に、雨が多い場合は、追加散布を行う。発病果は伝染源となるため、見つけ次第土中に埋めるなど適切に処分する。

### (3) ブドウ

- ・棚面の明るさを確保するため、着色期までに新梢誘引の見直しを行う。棚面が暗い場合は、副梢の葉を2～3枚残して摘心する。着色始めの極端な新梢の剪除は、着色不良を招く場合もあるため注意する。

- ・べと病や黒とう病が発生しやすくなることから、防除暦を参考に散布間隔が空かないように防除を徹底する。なお、発病葉や果房は伝染源になるため、見つけ次第除去する。
- ・晩腐病の感染を防ぐため、防除暦や晩腐病防除マニュアルを参考に防除を徹底する。特に果粒への感染を防ぐため、仕上げのカサかけ、袋かけは出来るだけ早期に行う。摘粒作業が遅れている場合は、先にカサをかけてから摘粒を行う。
- ・べと病や黒とう病の発生が見られる園や、カサ・袋かけが遅れて晩腐病の感染が心配される園では、果粉の溶脱・果粒の汚染や使用回数、収穫前日数に注意して次の薬剤を散布する。

べと病	ジャストフィットフロアブル	5,000倍	使用回数3回	収穫30日前まで
黒とう病	オンリーワンフロアブル	2,000倍	使用回数3回	収穫前日まで
晩腐病	セイビアーフロアブル20	2,000倍	使用回数3回	収穫21日前まで

ジャストフィットフロアブルは周辺に立木類がある場合は飛散しないように注意する。

## (2) 野菜・花き・水稲・大豆

### <野菜>

- ・ナス、トマト、キュウリ等の果菜類では、褐色腐敗病、疫病、べと病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株、病葉、病果の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。
- ・葉根菜類では、べと病や軟腐病などの病害が発生しやすくなるので、適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。
- ・トマトでは、日照不足により結実が不安定となりやすいため、ホルモン処理により確実に着果させる。
- ・圃場の過湿を防止するため、圃場周囲には排水路を整備する。

### <花き>

- ・べと病やうどんこ病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。
- ・鉢間隔を広げたり、追肥等の適正な施肥管理に努め、草勢の維持と促進を図る。
- ・大雨による冠水等を防ぐため、圃場やハウス周りに排水路を整備する。

### <水稲>

- ・補植用の置き苗は、いもち病の伝染源になることが多いので、不要になった置き苗は速やかに処分する。
- ・冷水灌漑田、日照不足田、窒素過多田などでは、いもち病の予防散布を行う。
- ・いもち病の早期発見に努め、発生がみられる水田では、直ちに薬剤散布を行う。

## <大豆>

- ・滞水しやすいほ場では、湿害の回避のため、ほ場の周囲に溝を設置するなど排水対策を講じる。

### **(3) 畜産**

- ・飼料作物については、排水不良が懸念されるほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。
- ・降雨により畜舎内の湿度が上昇する場合は、換気や通風を適時実施するなど、畜舎内環境の改善を図り、疾病発生予防及び家畜のストレス低減に努める。
- ・雨水等によって変質した飼料は廃棄し、飼料タンク内の点検や飼料庫の通風を促す。